子どもに安全をプレゼント

9～10か月児健診用

子どもの事故はちょっとした気配りで防げます。事故を防ぐためのポイントをまとめてみました。

1. タバコが入っているバックは赤ちゃんの手の届かない所に置きましょう。

赤ちゃんは探求心が旺盛で、大人が物を出し入れするバックが気になります。バックの中には、小銭や化粧品、薬など誤飲事故につながる物がたくさん入っています。バックの中に入っていれば大丈夫と思って、赤ちゃんの側に置いておいたため、目を離したすきにタバコをバックの中から出して食べてしまった事故が起きています。

タバコはいつも子どもの手の届かない所に置きましょう。

2. ボタン電池や硬貨、指輪などの小物は手の届かない所に片付けましょう。

赤ちゃんは何気なく床やテーブルの上に置いてある小物をつまんで口に入れてしまいます。赤ちゃんの口の大きさは最大32mmなので、これより小さなものは飲み込めてしまいます。

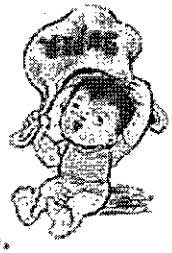
異物を飲み込んだ場合、普通48時間以内に便と一緒に排出されますが、心配な場合はかかりつけ医に相談しましょう。ボタン電池を飲み込んでしまった場合はすぐに病院を受診しましょう。部屋の中の小物は整理整頓しておき、自宅だけではなく、実家やよその家に外出した時も注意しましょう。

3. ピーナッツやあめ玉などは赤ちゃんの手の届かない所に置きましょう。

赤ちゃんの気管には物が入りやすく、この時期ピーナッツや柿豆などの豆類を与えるのは危険です。豆類は赤ちゃんの気管をふさいでしまう大きさなので、気管に入っているのに気がつかないと肺の炎症を起こしてしまいます。

ピーナッツは3歳を過ぎるまで与えるのをやめましょう。食べ物のかたさや大きさ、口の中に入れる量を考え、ゆっくり食べさせましょう。

4. ビニール袋は手の届かない所に片付けましょう。



シールやラップをはがして遊んでいて、飲み込んでのどに詰まらせり、ビニール袋を頭からかぶって、鼻や口をふさいでしまうなどの事故が起こっているので、スーパーやコンビニ、クリーニングのビニールの袋には注意が必要です。また、歩けるようになると、壁にかけてある袋やひもに首をかけて窒息してしまう事故も起こっています。ビニール袋やラップは手の届かないところに収納し、おもちゃ代わりにして遊ばせないようにしましょう。

5. 階段や玄関など段差があるところには子どもが一人で行けないようにしておきましょう。

玄関によちよち歩いていって転落したり、階段をよつんばいで上がってしまい転落します。ちょっと目を離したすきに、思わぬところに移動するようになるので、転落の危険のある場所のドアには鍵をかけたり柵をつけて、一人では行けないようにしておきましょう。

6. テーブルなど家具のとがった角には、コーナークッションなどでガードしましょう。

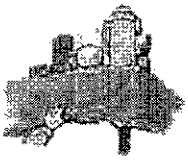
つかまり立ちや伝い歩きの頃は転倒がつきもので、転んだ先の家具や柱の角に、頭や口をぶつけて打撲したり切傷したりします。家具はなるべく丸みのあるものを選び、角にはクッションテープなどを取り付け、ぶつかったときの衝撃を和らげる工夫をしておきましょう。

7. 赤ちゃんの椅子は安定のよいものを使用しましょう。

椅子に座っているとき、テーブルを足でけった勢いで赤ちゃんが椅子ごと倒れたり、椅子によじ登って転落したり、ベビーカーやショッピングカートからいきなり立ち上がって転落してしまう事故があります。

子ども用の椅子は安定のよい倒れにくいものを選びましょう。ハイチェアーやベビーカーに座らせたらぜず安全ベルトをしめ、乗り降りするときは大人が行うようにしましょう。

8. テーブルクロスは使用しない。



テーブルクロスをかけていると、赤ちゃんが食事中引っ張って、熱い食べ物や飲み物がこぼれてやけどをしてしまったり、つかまり立ちをするときに引っ張って、コップやお皿、ジャムのビンなどが落ちてきて打撲をしてしまいます。

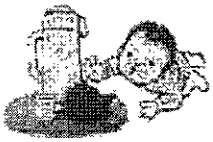
子どものうちは、テーブルクロスの使用はやめましょう。

9. テーブルや棚の上にある食器や重いビン、缶などは赤ちゃんが自由に触れないようにしておきましょう。

テーブルの上に置いてあるコップを落として、割れた破片を踏んでしまったり、缶詰やジャムのビンを足に落としてしまったり、手の届く所にあるものに興味を持って触ったり、引っ張ったり、押したりすることより、外傷や打撲事故がみられます。

テーブルや棚の上にある食器や重いビン、缶などは自由に触れないようにしておきましょう。

10. ポットや炊飯器は赤ちゃんの手の届かない所に置きましょう。

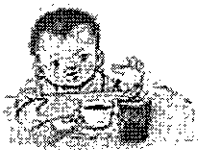


赤ちゃんはつかまり立ちができるようになると、床に置いてあるポットにつかまりひっくり返したり、電気コードを引っ張ってお湯をこぼしたり、炊飯器の蒸気の噴出し口に手や顔を近づけてやけどをしてしまう事故が多くあります。

ポットや炊飯器、熱いなべや食べ物は赤ちゃんの手の届かない所に置きましょう。

ポットにはロックをかけ、余分なコードは巻き取っておきましょう。

11. 熱いお茶、味噌汁、カップラーメンなどは赤ちゃんの手の届かないテーブルの中央に置きましょう。



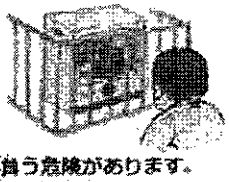
赤ちゃんは熱いものにも平気で手をのばし触れてしまいます。お母さんが食事の準備中、ちょっと目を離したすきにガス台から下ろしたばかりのやかんや鍋を触ったり、お母さんが飲もうとしたコーヒーをひっくり返してやけどをしてしまう事故があります。

熱い食べ物や飲み物はテーブルの中央に置き、赤ちゃんを抱きながら食べたり運んだりするのはやめましょう。

12. アイロンは使用後、赤ちゃんの手の届かない所に置いて冷ましましょう。

使い終わったばかりのアイロンの温度は90度です。使用時だけではなく、温度を冷ますときも手の届かないところに置いて冷ましましょう。

13. ストーブやヒーターは赤ちゃんが触れないようにガードをして使用しましょう。



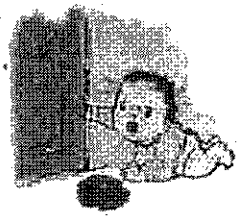
冬は暖房器具によるやけどが多くなります。ストーブの近くに寝かせておいて、寝返りをしたときに手があたったり、ヒーターの噴出し口に指をつけたり、転んでストーブにふれてしまったりします。赤ちゃんの皮膚は大変弱く、ほんの少しの熱でも重症なやけどを負う危険があります。

熱源が直接触れないように、ガードをして使用しましょう。

ストーブの上にやかんは置かないようにしましょう。

また、体温より少し高いくらいの温度でも、長時間あてたままにすると低温やけどを起こすことがあります。赤ちゃんはストーブ・ヒーターの熱が直接あたらないようにして寝かせましょう。こたつや電気カーペットには長時間寝かさないようにしましょう。

14. ドアのちょうつがい部分には指が入らないようにガードをしましょう。



ドアのちょうつがい側に指をはさむと大きな圧力がかかるため、指を骨折したり、切断してしまうような大きな事故になりかねません。赤ちゃんの小さな手はちょっとしたすき間にも簡単に入ってしまうので、特に玄関などの重さのあるドアのちょうつがい部分には注意が必要です。

ドアを開閉するときは、赤ちゃんの手の位置を確認しましょう。

ドアのちょうつがい側には防止グッズなどでカバーをし、ドアを開けておくときは、風で急に閉まらないようにドアストッパーなどで固定しましょう。

15. テレビ台のガラスの扉やビデオデッキのテープ挿入口は、赤ちゃんが手や指を入れないようにガードをしましょう。

テープが出たり入ったりするビデオデッキの挿入口。赤ちゃんがおもちゃを中に入れて遊んだり、つい手を入れてみたくなるところです。手を入れて抜けなくなったりしないように、カバーでおおえば手をはさむ危険が防げます。

テレビ台のガラスの扉やビデオデッキのテープ挿入口には、ガードをしておきましょう。

16. 包丁、はさみ、かみそりなどの刃物は使用したらすぐ片付け、取り出せないように引き出しにはロックをする。

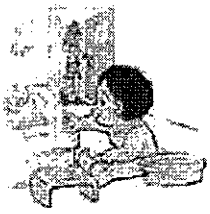
まな板の上に置いてあった包丁を取ろうとして足の上に落としてしまったり、洗面台のかみそりを握ってしまったり、赤ちゃんはこれから大人が使っている物に興味を持ち、真似をして自分でも使ってみようとします。

刃物を使用したらすぐ収納場所に片付ける習慣をつけておきましょう。

17. バケツや洗面器に水をためて床に置いたままにしないようにしましょう。

赤ちゃんは10cm程の浅い水深でも溺れてしまいます。バケツや洗面器に溜まっている浅い水に身を乗り出しのぞき込んで見ているうちに、顔がつかって溺れてしまったりするので、使い終わったら必ず水を捨てておきましょう。水遊びをしているときは一人にしないことです。

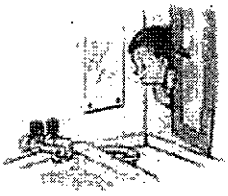
18. 入浴中の赤ちゃんを一人にしたままにせず、入浴後は浴槽のお湯はぬいておきましょう。



入浴中、支えなしに座れるようになったばかりの赤ちゃんを一人にして着替えを取りに行ったり、電話に出たり、お母さんがシャンプーをしている間、浴槽につかまり立ちをさせておいたら、よじ登って溺れたり、浴槽の外にいるからといって安心できません。

浴槽のふたは入浴する直前にはずし、入浴中の赤ちゃんからは目を離さないようにしましょう。入浴後は浴槽のお湯はぬいておきましょう。

19. 一人で浴室に入れないようにドアにカギなどをつけておきましょう。



じっとしていることが少なく、一人でもよちよち歩いていってしまう1歳ごろ。掃除をしようとして浴室のドアを開けておいたら、知らないうちに浴室に入り、浴槽をのぞきこんで溺れてしまう事故がおきています。

浴室のドアは開けっ放しにせず、カギをかけて自由に出入りできないようにしておきましょう。

20. 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用しましょう。

赤ちゃんを抱いて車に乗るのは危険です。車が急に止まったり、衝突すると、膝から飛び出し、衝撃をまともに受けてしまいます。たとえゆっくり走っていても衝撃のエネルギーは予想以上に大きく、大人の手の力では支えきれません。

車に乗せる時は年齢にあったチャイルドシートを後部座席に取り付け使用しましょう。

購入時には耐久性や安全基準に合格したJISマークや運輸省の認定マークを目安に車種にあったものを選びましょう。